

前田幸市郎メモリアル (30周年)演奏会

30 年

2019年9月18日(水)

18:30 開演(18:00 開場)

学習院
創立百周年記念会館正堂

3,000円(全席自由)

CHERUBINI: REQUIEM FÜR MÄNNERCHOR

L. ケルビーニ 「レクイエム ニ短調」

FUJIHARA YOSHIHISA: KITAKARA NO BANKA

藤原義久 「北からの挽歌」

FAURE: REQUIEM D-MOLL OP.48

G. フォーレ 「レクイエム ニ短調 Op.48」

指揮: 前田 幸康 ソプラノ: 松井 亜希 バリトン: 堤 智洋

管弦楽: 前田幸市郎メモリアル管弦楽団

合 唱: 東京合唱団 | 東大コールアカデミーOB会 | 学習院輔仁会音楽部OB・OG | 川口第九を歌う会

東京理科大理声会混声合唱団 KAGURA | 東京J.S.バッハ合唱団 | 東京室内混声合唱団 | 聖心グリーOG

東京セント・アカデミー合唱団 | 山形大「山音会」 | 混声合唱団カンパネラ・コール(秋田) | ほか有志

連絡先: 川越 090-3813-8598 E-mail: kazu-kw@t07.itscom.net



本年は指揮者の故前田幸市郎先生の没後30年を迎えます。生前に様々な団体や学校などでご指導を受けた面々が集まり、先生を偲んでコンサートを開くこととなりました。演奏には、前記の人達の中で現在は指導的な立場に立っている人を通じて前田先生の音楽を継承している、いわば孫弟子に当たる人達も多数参加しています。演奏会はご命日に当たる9月18日です。プログラムには先生が本邦初演の指揮をされた曲の中から、G. フォーレ作曲「レクイエム ニ短調 (作品48)」、L. ケルビーニ作曲「レクイエム ニ短調」それに作曲家の藤原義久先生が前田先生を偲んで作曲された「北からの挽歌」を選びました。



前田 幸康 (指揮)

国立音楽大学卒業。チェロを小沢弘、黒沼俊夫、小野崎純の各氏に師事。N響、日フィル等のオーケストラでフリーのチェリストとして活躍し、東京ゾリステン等の室内楽にも力を注ぐ。現神奈川県フィルハーモニー交響楽団の前身であるロリエ管弦楽団を金子登、前田幸市郎と設立し、初代チェロ第一首席奏者を務める。

1973年に渡欧し、Prof.マルティン・オースタータークに師事。1974年1月よりフライブルク市立交響楽団のメンバーとなる。前田幸市郎か

ら指揮の指導を受け、1990年以来、日本において活動をしている。1985年よりプロアルテ・カンマー・オーケストラ・フライブルクの首席チェリストを兼任。また同年にフライブルク市よりカンマームズィカーの称号を贈られ、1998年には国際文化交流功労賞メダルを同市より授与された。2009年には日本国外務省の国際文化功労賞を受賞。元上野学園大学弦楽部会主任、教授。東京合唱団音楽監督。



松井 亜希 (ソプラノ)

埼玉県立不来方高校普通科音楽コース、東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院修士課程・博士課程修了。プーランクの歌曲作品を研究して博士号取得。在学中に同声会賞、アカンサス音楽賞、三菱地所賞受賞。日仏声楽コンクール、日本ドイツリートコンクール優勝、日本音楽コンクール(歌曲部門)入選。しなやかで透明

度の高い歌声と豊かな表現力でルネサンスから現代音楽まで幅広く活躍している。バッハ・コレギウム・ジャパン(BCJ)のメンバー。



堤 智洋 (バリトン)

大分県出身。東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院音楽研究科修士課程オペラ専攻修了。J.S.バッハ「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」「ロ短調ミサ」「教会カンタータ」、モーツァルト「戴冠ミサ」、フォーレ「レクイエム」等でソリストを務める。オペラでは、第61回芸大オペラ定期公演「フィガロの結婚」に伯爵役で出演。他に、

「ヘンゼルとグレーテル」ペーター、「こうもり」ファルケ、「魔笛」パパゲーノ等を演じる。宮本修、山下浩司、吉田浩之、萩原潤の各氏に師事。

